

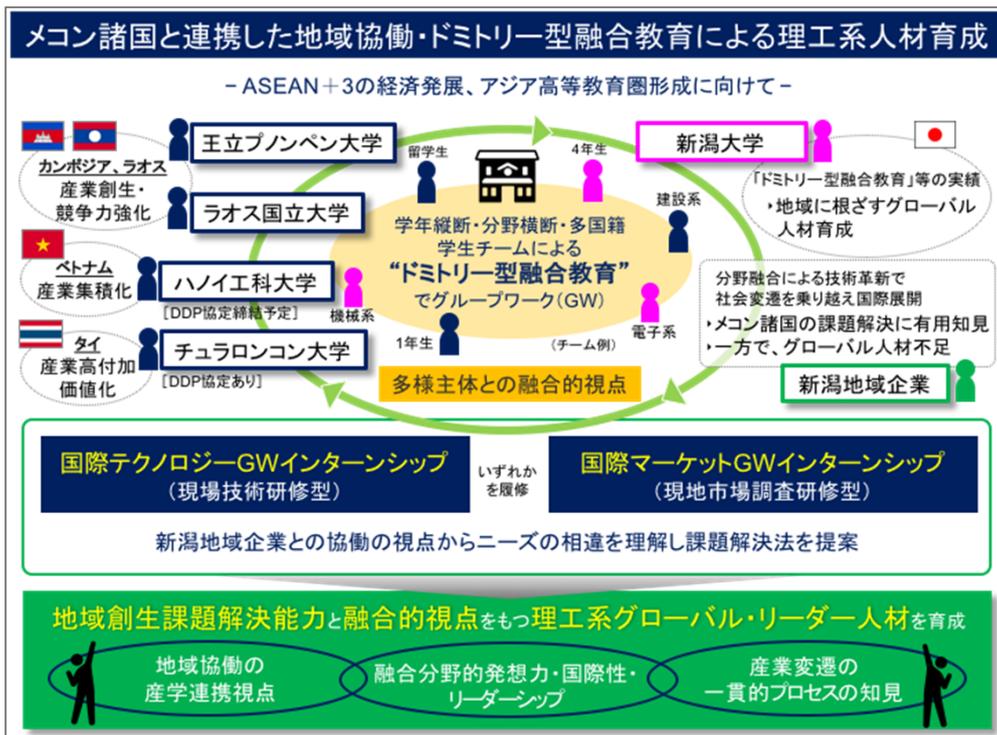
# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 新潟大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成

## 【事業の概要】

本事業は、工学部が開発した「ドミトリー型教育」と大学院自然科学研究科のタイ・チュラロンコン大学等とのダブル・ディグリー・プログラム(DDP)整備の実績に基づき、新潟地域企業と連携したインターンシップ等を組み合わせた双方向教育プログラムを実施し、地域創生課題解決能力と融合的視点を持つ理工系グローバル・リーダー人材を育成することを目的とする。本事業で養成する人材は、グローバルな視点で地域創生を実現すると共に、インフラ産業や製造業などで、持続的で質の高い産業の創生・発展に貢献することが期待できる。また、質の保証を伴った国際基準のGWプログラムとしての「ドミトリー型融合教育」の国内外への拡大を目指す。これらにより、ASEAN+3の経済発展及びアジア高等教育圏形成に、先導的に貢献する。



## 【交流プログラムの概要】

本学とメコン地域4大学の学生で、「ドミトリー型教育」の特徴である、学年縦断・分野横断・多国籍学生チームを結成し、短中・長期の3コースで、主にグループワーク(GW)に取り組む。GWインターンシップでは、国際展開力を有する新潟地域企業(メコン地域の現地法人を含む)の全面協力を得ており、国によって異なる課題やニーズを地域協働の視点から理解すると共に、異なる社会環境を実体験することで、産業変遷の一貫的プロセスの知見の涵養を図る。

## 【本事業で養成する人材像】

- 日本とメコン諸国のニーズの相違と互いのマッチングを、地域の産学連携視点でグループ討論することで、グローバルな観点から課題を発見・解決し、地域創生に貢献できる実践的理工系グローバル人材
- 多分野・多国籍・学年縦断のメンバーでのGW活動経験により、グローバルな観点での融合分野的イノベティブ発想能力と共に、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップを兼ね備えた人材
- 産業創成発展期を主にメコン諸国で、産業国際展開の取組みを主に日本で体験学習し、それらの総理解で産業変遷の一貫的プロセスの知見が涵養された、産業創生・発展・高度化に寄与する理工系グローバル人材

## 【本事業の特徴】

「ドミトリー型教育」を核として、メコン地域の「質の高い成長」に向けた課題や、新潟地域企業のさらなる国際展開に向けた課題を連結的に理解し、多様主体との融合的視点で実践的能力を涵養する国際基準の理工系教育プログラムが実現する。

## 【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	2	15	20	30	30
学生の受入	2	15	20	26	26

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【新潟大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈試行的学生受入〉

平成28年度は、次年度以降の本格的なプログラム実施のための準備期間とし、本学工学力教育センター内に本事業の実質運営を担う「国際教育部門」を新設し、各種委員会の人選・設置により事業の基盤的枠組みを形成した。本事業を紹介するリーフレットやウェブサイトの作成やシンポジウム、FD等の開催により本事業を広く学内外に周知した。また、試行的学生交流による派遣・受入を実施し、参加学生やインターンシップ受入企業からの意見を聴取することにより、次年度以降における交流プログラムの改善に向けての課題や問題点を把握することができた。

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成28年度は試行的短期交流として、計画どおり、2名の学部学生をチュラロンコン大学(タイ)に派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入

平成28年度は2名の学部学生の受入れを試行的短期交流として計画していたが、それに加え3名の大学院生の受入れも実施し、計5名を受入れた。学部学生は県内企業でのグループワーク・インターンシップを、また大学院生は研究室ベースでの実験・実習を日本人学生とともにいった。

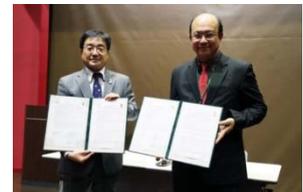
	H28	
	計画	実績
学生の派遣	2	2
学生の受入	2	5



〈国際連携運営委員会〉

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本事業の教育の質担保の議決組織として、「国外運営委員会」(国際担当副学長とコーディネーター教員)と「新潟大学運営委員会」(国際担当副学長や工学部長など)から構成される「国際連携運営委員会」を設置した。また、本事業の運営等の具体的事項に取り組む「国際教育部門」を、ドミトリー型教育とインターンシップの経験をもつ工学力教育センター内に新設した。これら委員会の合同会議を開催すると共に、王立ブノンペン大学及びハノイ工科大学と本学との間で大学間交流協定(学生交換協定を含む)を締結した。また、インターンシップ支援や学生発表会コメンテーター等を担う学外技術者組織「国際100人カネットワーク」と、継続的改善のため学外有識者の「外部評価委員会」も設置した。以上により、事業の基盤的枠組み組織の形成がほぼ完了し、円滑な事業推進が可能となった。



〈大学間交流協定締結〉

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

工学力教育センター内に新設した「国際教育部門」において、英語が堪能で国際経験が豊富な特任専門職員1名を雇用し、また、特任教員については公募により平成29年4月からの採用決定したことにより、課題であった国内外の関係各所とのプログラム運営に係る詳細な情報交換や緊密な連携を可能とし、学生が安心して学業に集中できるよう履修・生活両面でのサポート体制を整えた。また、連携先であるメコン地域4大学においても、それぞれコーディネーター担当者を決定したことによって、各大学の窓口が一本化され、学生にとっても相談しやすく、また大学間で情報共有や状況把握し易い体制を整えることができた。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

平成28年度は12月にキックオフシンポジウム、また、3月に工学教育に関するフォーラムを開催し、本事業の取組みを広く紹介した。また、本事業の概要を記載したパンフレットを日英2ヶ国語で作成し、学内の学生・教職員、及び海外の相手大学に配布した。さらに、本事業のホームページも日英2ヶ国語で開設し、事業の概要・実績、参加学生募集、プログラムに関するイベント等の情報を学生等が入手しやすとした。

## ■ グッドプラクティス等

メコン地域の連携大学から副学長及び担当教職員を招聘のうえ、第1回国際連携運営委員会会議及びキックオフシンポジウムを本学で開催し、本事業概要説明、各連携大学の概要、及び国際交流実績等に関する講演を行い、学内外及び連携大学において理解と協力を得ることができた。また、キックオフシンポジウム参加者約180名が見守る中、大学間交流協定調印式を行ったことが、地元新聞(新潟日報)に取材され、記事が掲載されたことにより、関係各位に加えて一般市民に対しても、本事業を広く周知することができた。

## 2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【新潟大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

### メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成

#### ■ 交流プログラムの実施状況



短期受入プログラムの集合写真

新潟大学及びメコン地域4大学でグループワークでのインターンシップを主とした学生の相互交流プログラムを実施した。新潟での短期受入、タイでの短期派遣に併せて開催したフォーラムおよび国際シンポジウムにより学内外へ成果発信を行った。また、それらの機会に連携大学教員が集まり運営委員会を実施することで、協力体制の強化と密な連絡調整が可能となり、計画以上の学生交流実績を出すことができた。渡航前後も含めた事前学習・事後学習・英語での最終発表、評価までのプログラムの流れと修了要件を確立し、派遣・受入学生の32名に修了認定証を発行した。これに加え、本学において22名及びメコン地域4大学において計26名の現地学生が受入チームとしてプログラムに参加したことによって、より多くの学生への教育的波及効果を図った。

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

##### ○ 日本人学生の派遣

平成29年度から本格的な学生交流を開始し、短期(約10日間)10名、中期(約2ヶ月間)6名、長期(約6ヶ月間)1名の学生を派遣した。派遣先の現地学生とチームを作り、グループワークのインターンシップとともに、研究活動や講義の聴講も行った。

##### ○ 外国人留学生の受入

派遣と同様に3種類のプログラムで、短期8名、中期6名、長期1名の学生を受入れた。さらに、短期の特別フォローアッププログラムにより4名の受入を行った。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	15	17
学生の受入	15	19

#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・複数回に及ぶ連携大学教員による対面での会議開催により、緊密な連携関係を構築することができた。
- ・プログラムの実施に係る科目を整備し、修了認定のための申し合わせを関係部局で作成した。
- ・インターンシップの評価及び研究活動の評価のための5段階のアセスメントシートを作成し、関係科目の成績評価の1つとした。
- ・「(仮称)ASEAN+3留学生の学修履歴のための成績証明書及び補足資料に関するガイドライン(草案)」を試用して単位認定のための補足書類(Supplemental Document)を作成するとともに、単位付与には直接関係のないアカデミックな活動記録を補足的に伝えるための様式を作成し、メコン地域4大学に送付した。



国際シンポジウムでの発表

グループワークの様子

#### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・派遣、受入双方において本学指定の保険加入を義務付け、渡航時の安全対策に関するガイダンスを実施した。
- ・留学先及び本学のプログラムコーディネーター教員が窓口となり、大学での学習活動だけでなくインターンシップ実施の相談もケアすることで、学生が安心してプログラムに臨むことができた。
- ・受入大学の現地学生とグループでインターンシップを行うため、グループ学生が自主的かつ能動的に留学生をサポートする体制を築くことができた。

#### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

##### 情報の公開、成果の普及

- ・本事業は、本学の機能強化基本戦略「環東アジア地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築」に合致し、部局横断で新設された「環東アジア地域教育研究ネットワーク」と連携して、本学の国際化を進展させた。
- ・東アジア5大学の教職員・学生が集まる国際学会「Fusion Technology」と併催で国際シンポジウムを本学で実施し、本事業の成果の普及を図った。また、日本工学教育協会第65回年次大会(8/29-31 東京都市大学)において成果発表を行った。
- ・Facebookページを作成し、写真や動画を用いて、日英両併記で活動報告を頻繁に行うとともに、本事業のホームページに「参加学生の声」を追加することで、より身近で分かり易い情報提供ができるようになった。

#### ■ グッドプラクティス等

- ・学年、分野、国籍が異なるグループでの活動により、学業だけでなく生活・文化理解の観点からの相互で学び合い・助け合いができる関係ができ、異文化理解向上につなげることができた。
- ・インターンシップ受入企業との意見交換会実施により、企業同士の学び合いの機会を持つことで、次年度以降のグループワークインターンシップの改善につなげることができた。
- ・本事業による留学経験学生がリソースパーソンとなって、留学生及び在学学生に対する経験・知見共有や留学サポートを行う学生ネットワーク(コミュニティ)を形成することができた。彼らの活動により、さらなる交流の活性化が期待できる。
- ・本学と燕市包括連携協定に基づいた「つばめ産学協創スクエア事業」協働のインターンシップを実施することで、地方創生活動に寄与し、新聞報道された。